

Annual Report 2011

- Highlight -

TABLE FOR TWO International



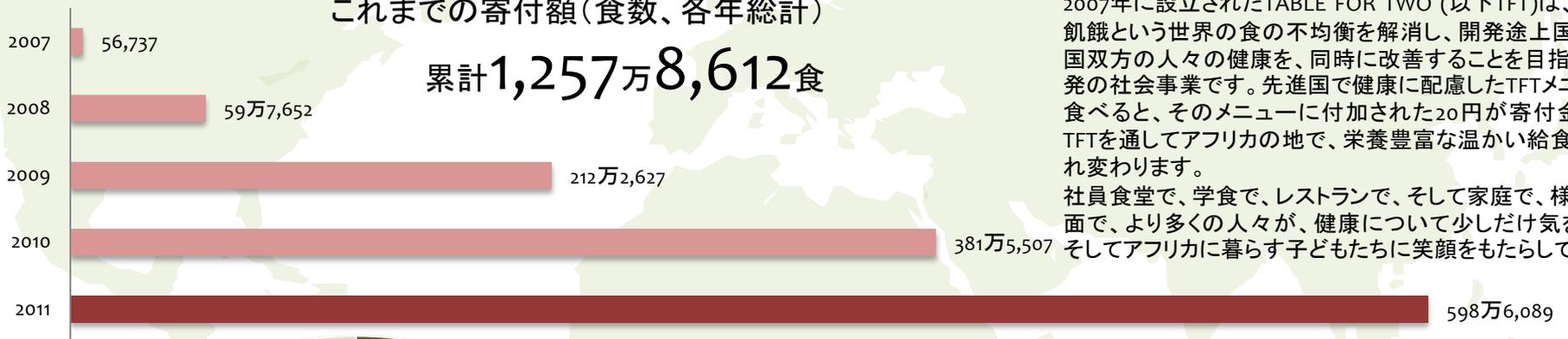
Ethiopia
Uganda
Rwanda Kenya
Tanzania
South Africa

TABLE FOR TWO 2011

欠くことのできない毎日の食事。そんな日常生活のなかの少しの変化が、地球の裏側で大きな変化を起こします。

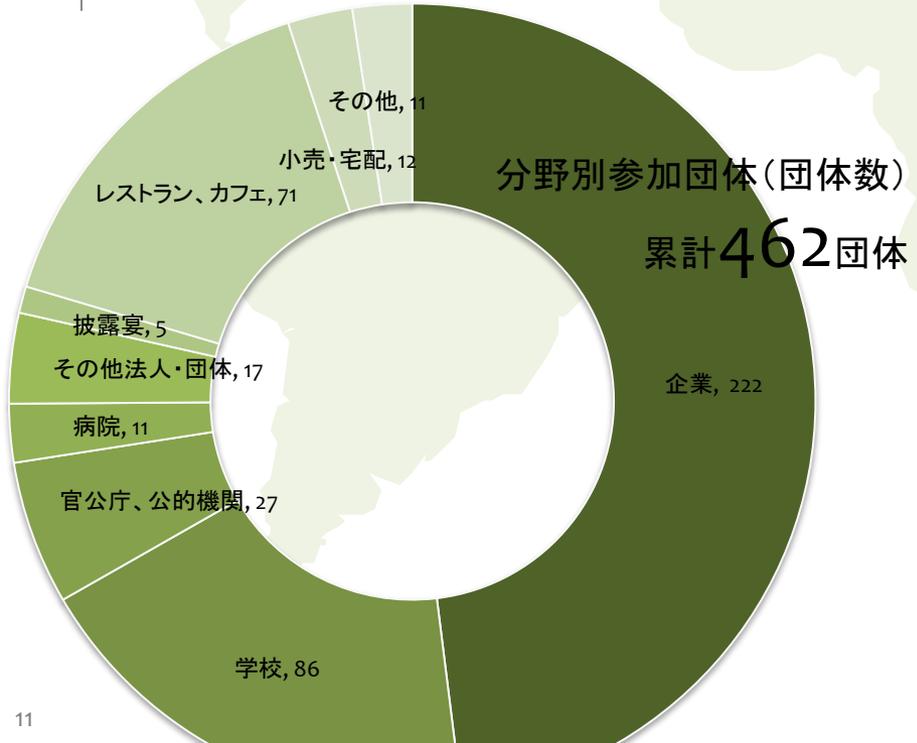
これまでの寄付額(食数、各年総計)

累計1,257万8,612食



2007年に設立されたTABLE FOR TWO (以下TFT)は、飽食と飢餓という世界の食の不均衡を解消し、開発途上国と先進国双方の人々の健康を、同時に改善することを目指す日本発の社会事業です。先進国で健康に配慮したTFTメニューを食べると、そのメニューに付加された20円が寄付金としてTFTを通してアフリカの地で、栄養豊富な温かい給食に生まれ変わります。

社員食堂で、学食で、レストランで、そして家庭で、様々な場面で、より多くの人々が、健康について少しだけ気を配り、そしてアフリカに暮らす子どもたちに笑顔をもたらしています。





Unhealthy
>>> Healthy



Domino's Pizza

2011 Highlight



キャンペーン

世界の食の不均衡について考えるきっかけをつくり、同時に、アフリカでの学校給食支援プログラムにご参加いただくために、さまざまな企業・団体にご協力いただきながら、キャンペーンを展開しています。



TABLE FOR TWO @Home



TFTプログラムに参加できる「場」の多様性が増えています。レシピ本「世界をつなぐあこがれ企業の社員食堂レシピ」を通して献立を考え、ハンディ・フードプロセッサー・Bamixで調理し、作った料理を楽天レシピで共有し、iPhoneアプリで日々の食事を記録することで、家庭での料理を通したTFTへの参加が可能になりました。

NEWDAYS

1月、2月にはJR東日本のエキナカコンビニNEWDAYSで「カラダほっこり×ココろうおい」キャンペーンが実施されました。TFTへの寄付つき商品61品目が発売され、30万食以上の学校給食を支援できるだけの寄付をいただきました。



子どもたちへ食育を



2011年10月、日本興亜スマイルキッズ江戸川橋保育園(認可保育園)で、TFTプログラムがスタートしました*。幼児向けのTFTプログラムでは、食に興味を持ってもらい、野菜をたくさん食べることを推奨しています。TFT実施初日には、「秋冬の食材根菜を知ろう！」をテーマに、様々な野菜が出てくる絵本の読み聞かせの後に、子どもたちが直接野菜に触りながら調理に参加しました。

世界食料デーキャンペーン

10月16日の世界食料デー(世界中の人が食べ物について考える日。国連制定。)を記念し、先進国に暮らす人々がヘルシーな食事を通して、キャンペーン期間中(2011年10月16日(日)~11月30日)にアフリカの小学校へ給食100万食を届けることを目指す、『100万人のいただきます!』キャンペーンを実施しました。



*給食を食べた幼児数(離乳食対象児童以外)×20円を保育園が寄付



New York Washington DC Columbus San Francisco Los Angeles London New York New York

Hello
Hoy
안녕
Hallo
你好
こんにちは

世界への広がり

2011年、TFTは日本を離れ、これまで実施されていたアメリカ、イギリス、スイス、台湾に加え、香港、韓国、フィリピン、ノルウェー、イタリアでもTFTプログラムが広がりを見せています。

アメリカでも、2010年末には10団体だった参加企業が、2011年には24団体へと実施箇所が増え始めています。中でも、Columbia University、University of San Franciscoなど全米各地の大学を拠点とした、学生中心の活発な活動が広がっています。現在、ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントンD.C.、ロサンゼルスなど全米7都市でプログラムが実施されています。

アジアでは、2010年にTFT代表小暮の著書「20円で世界をつなぐ仕事」の韓国語訳版が発売されたのを受け、社員食堂でのプログラム導入に向け、準備が進んでいます。香港では、11月にTFT香港が設立され、サポーターや著名人を招いたキックオフ・イベントが開催されました。発足から数ヶ月で28ヶ所以上のレストランやカフェでTFTプログラムが導入されています。フィリピンでも、10月16日世界食料デーにアジア開発銀行内食堂にて、TFTメニューが提供されました。

一方ヨーロッパでは、イギリス、スイスに加え、ノルウェーでもTFTプログラムが始まりました。オスロ郊外のAkershus University HospitalでTFTメニューが提供されています。またイタリアでも、TFTローマが設立され、企業やレストランでの導入に向け、活動が広がりつつあります。

Hong Kong Philippines





アフリカでの学校給食の効果

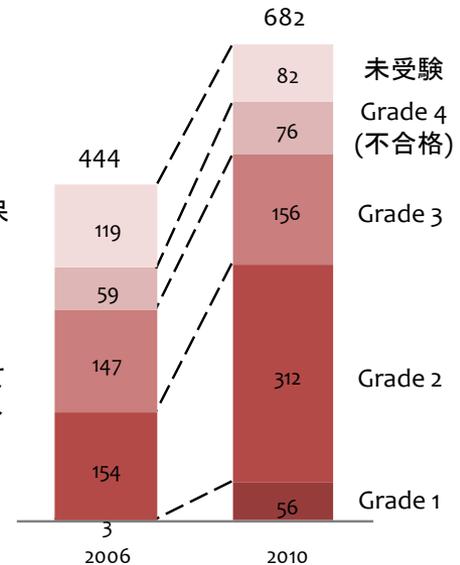


子どもたちへ

給食プログラムは子どもが学校に通うきっかけとなります。学校に給食が導入されることで、家庭で一食分の負担をする必要がなくなり、保護者にとっても子どもたちを学校に通わせるインセンティブになります。また、給食プログラムによって女子の就学率や出席率が高くなることも、証明されています。

給食プログラムが継続して行われることで子どもたちが学業に集中して取り組める環境ができます。また、継続して学校に通った結果として成績も向上しており、安定した給食の提供は子どもたちに中等教育への進学機会を提供しているといえます。

給食プログラムは、栄養バランスのとれた食事の提供に留まりません。給食の前に手洗いをすることや、食後に食器を洗うことなどを通じ、衛生面や栄養面など様々な分野の勉強の場にもなっています。



小学校から中学校に進学できる生徒が増加 (ウガンダの支援地域の卒業試験の成績、人)

ウガンダでは小学校卒業時に全員が試験を受けることになっています。Grade1が最も成績が良く、Grade1~3の生徒が中学校に進学することができます。TFTが支援を開始した2005年から2010年にかけて最終試験に参加できる生徒が約1.5倍になっただけでなく、スコアの高いGrade 1, Grade 2の生徒は約2倍になりました。



地域へ

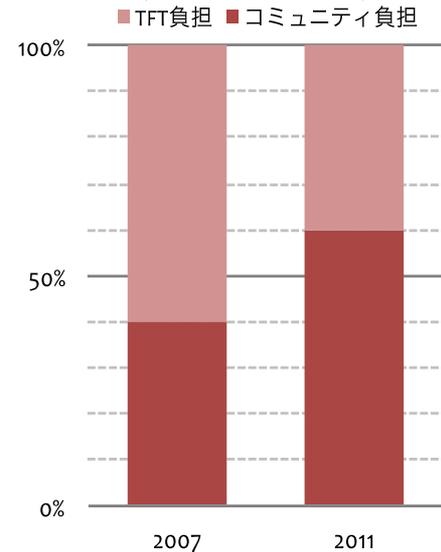
給食プログラムの準備・調理・配膳・片付けは地元の人によって行われます。地元の人たちが自らの手で給食を子供たちに届けることで、給食の大事さを理解するとともに、栄養・勉強の大切さを認識していきます。

コミュニティ負担比率の増加はコミュニティが積極的に給食プログラムに参加していることを示しています(右図参照)。TFT支援終了後もコミュニティによって給食プログラムが運営されることが大切と考え、コミュニティの参加を重視しています。

他の食材も可能な限り地域のコミュニティから調達されています。原材料を地元から調達することで地域の農産物が安定的に購入され、地元農家とその家族の生活向上にも一役買っています。

TFTは支援終了後も、現地コミュニティで持続的に給食プログラムが行われることを目指しています。例えば、マイクロクレジットで苗木を購入できるようにし、そこで栽培された作物を給食の材料にする等、長期的にコミュニティで運営可能なシステム作りを目指しています。

給食を提供するための負担比率 (%、ウガンダ支援地域)





財務報告

2011年1月1日 - 12月31日 (単位:千円)

(1) 収入		129,208
1. 給食事業寄付金	115,973	開発途上国、被災地の食料のための寄付金
2. 給食室事業寄付金	1,810	開発途上国の給食室のための寄付金
3. 菜園事業寄付金	78	開発途上国の菜園のための寄付金
4. 菜園事業助成金	190	日本での菜園設置のための助成金 ((2)4の支出額に加え、2010年に支払った設置費用に対する助成金)
5. 啓発事業	3,009	講演料、イベント参加費等
6. 運営寄付金	7,794	
7. 会費・入会金	250	
8. その他	104	

(2) 支出		116,532
1. 給食事業寄付金	92,407	開発途上国、被災地の食料に対する寄付金
2. 給食室事業寄付金	1,448	開発途上国の給食室に対する寄付金
3. 菜園事業寄付金	62	開発途上国の菜園に対する寄付金
4. 菜園設置関連費用	50	日本での菜園設置に関連する費用
5. 啓発事業経費	1,308	イベント開催費(会場費他)等
6. 人件費・外注費	15,763	人件費(常勤3名、非常勤3名)、外部への業務委託費(報告レポート印刷、税理士相談料等)
7. 事務所管理費	3,460	家賃、光熱水費、通信費、リース料等
8. 活動費	1,458	旅費交通費、会議費等
9. その他	576	租税公課、振込手数料等

当期収支差額	12,676
--------	--------

次期繰越収支差額	20,589
----------	--------



団体概要

【組織】 ※2011年3月末現在

団体正式名称 特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International
設立 2007年10月24日
種別 租税特別措置法第六十六条の十一の二第三項に規定する認定NPO法人(2010.1.16認定)

ホームページ <http://www.tablefor2.org/>

お問い合わせ info@tablefor2.org

代表理事

理事

小暮 真久
浅尾 慶一郎 - 衆議院議員
北神 圭朗 - 衆議院議員
世耕 弘成 - 参議院議員
高島 宏平 - オイシックス株式会社代表取締役社長
藤沢 久美 - シンクタンク・ソフィアバンク副代表
松田 公太 - 参議院議員

監事

事務局長

事業局長

決算期

渡辺 伸行 - TMI総合法律事務所 弁護士
安東 迪子
小林 智子
12月31日

【活動内容】

先進国でのヘルシーメニュー提供や啓蒙活動等のプログラム実施によって得た寄付を通じての開発途上国への学校給食支援を中核に、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動

【支援国】

ウガンダ共和国、エチオピア連邦民主共和国、ケニア共和国、タンザニア連合共和国、マラウイ共和国、ルワンダ共和国、南アフリカ共和国

【給食実績】

1,257万8,612食(累計・2011年12月末日)

【実施団体数】

462社・団体(日本国内・2011年12月末日)

【実施形態】

1. 社員食堂プログラム
2. 外食産業・食品小売実店舗プログラム
3. 喫茶・ドリンクメニュープログラム
4. その他食品関連プログラム(食品通販、挙式披露宴メニュー、仕出し)
5. 食の不均衡改善啓発プログラム